

CHAPTER 6: その他のサブルーチン

6.1 CLIPAREA

(1) 機能

作画領域をクリッピングする

(2) 呼び出し形式

CALL CLIPAREA(N,X,Y)

N : [INTEGER*4] クリッピングする閉曲線の点の数

X,Y : [REAL*4;配列N] 閉曲線の各点の座標

(3) その他

- ・ クリッピングによる作画終了後、CALL GRAREAを実行すること
- ・ ページ替えを行うと、クリッピングによる作画は強制終了する

6.2 GRAREA

(1) 機能

クリッピングによる作画を終了する

(2) 呼び出し形式

CALL GRAREA

(3) その他

- ・ サブルーチン CLIPAREA で作画領域をクリッピングする

6.3 MULTDRAW

(1) 機能

同じ図の多画面表示を実行する (CONTRとの共用は厳禁)

(2) 呼び出し形式

CALL MULTDRAW(MODE)

MODE : [INTEGER*4]

=0:多画面表示の開始を宣言

=1:多画面表示の終了を宣言

(3) その他

- ・ 多画面表示の位置は左上の図を基準として、右・下方向に

表示する

- ・ 多画面表示は出力で20行を超えない程度にすること
- ・ このサブルーチンと CONTR との共用はしないこと
- ・ 次のサブルーチンで定義された環境に従う

SETMULTD: 同じ図の多画面表示の諸元の設定

なお、設定された環境は、環境設定サブルーチンにより再度定義され直すまで有効である

6.4 ROTFIG

(1) 機能

図形を回転させる

(2) 呼び出し形式

CALL ROTFIG(X,Y,ANG)

(X,Y) : [REAL*4] 回転の中心のx,y座標

ANG : [REAL*4] 回転角(deg)

ただし、ANG=0.0の場合、元の状態に戻す

(3) その他

- ・ サブルーチンの利用例を以下に示す

CALL ROTFIG(X,Y,ANG)

! この間の図形が元の状態からANG回転されて描画される

CALL ROTFIG(X,Y,0.0)

CALL ROTFIG(X,Y,ANG1)

! この間の図形が元の状態からANG1回転されて描画される

CALL ROTFIG(X,Y,ANG2)

! この間の図形が元の状態からANG2回転されて描画される

! (ANG1回転した状態からANG2回転するのではない)

CALL ROTFIG(X,Y,0.0)

6.5 TXTSIZE

(1) 機能

文字列を描画させた時の全体の長さを返す

(2) 呼び出し形式

CALL TXTSIZE(CM,N,YS,SIZE)

CM : [CHARACTER*N] 描画するテキストの文字列

N : [INTEGER*4] 文字列の長さ

YS : [REAL*4] 文字列の高さ

SIZE : [REAL*4] 文字列を描画させた時の全体の長さ

(3) その他

- ・ SETFNT, SETKFNT 等で設定されている文字を描画させた時の長さを返す

6.6 WHERE

(1) 機能

CALL PLOT等*1)で描画中のペンの現在位置を返す(GPSL準拠)

(2) 呼び出し形式

CALL WHERE(X,Y,DUMMY)

(X,Y) : [REAL*4] ペンの現在位置

DUMMY : [REAL*4] DUMMY

(3) その他

*1) PLOT以外にはDASHP,LINE2,PLOT3および

点列を間引かない場合はCNTRL,DASHL,FLINE,LINE,SMOOTが対応する

また、CALL SYMBOLでセンターシンボルを表示後はペン位置はセンターシンボルの中心位置になる

- ・ ASHADE,ASHADE2,CONTR,SHADEをコールしない限り、*1)以外のサブルーチンコールに左右されない